

The Nativebuster Grammar Intermediate Contents

あなたの英文法の常識をさらにくつがえします

Intermediate までやれば、英語を話すということにおいてのあなたの英文構築力はほぼ完璧になります。過去完了、分子構文、仮定法過去、など、高校生のころ私たちが悩ませた、難しい(?) 文法事項も、実はネイティブは日常会話でひんぱんに使っていて、分かっってしまうと、こんなに便利なものかと思うはずです。文法のお勉強ではなく、そのネイティブ感覚の理解を植え付けることが大切なのです。

Basic 同様スマートフォン、タブレット、あるいはパソコン上でネイティブとの対話を通して、“聞き話す”中で修得していきます。

さらに多くのイラスト、アニメーションを加え、たっぷりの口頭練習をしていただきます。

Nativebuster 基礎英単語編で学習する英語表現満載ですので、英単語の学習も同時に行ってしまうことになります。

1. what, who, where, etc. + S + V

Basic でも取り上げたこの構造はあなたの表現力を格段に広げるので、Intermediate では更なる定着を図り、さらに発展させます。I don't know **who she is**. You haven't told me **where you went last night**. Could you tell me **what it looks like**? このような who, where, what, when, why, how, if(whether)の使い方が感覚的にできるようたっぷりの口頭練習をします。ネイティブの質問に答えたり、答えるのを拒んだり、**感覚となるまで、これでもかと言うほどの練習を手を変え品を変え何度も何度もしていただきます。Basic と同様の練習ですが、扱う英文の内容はさらに高度になります。**

また、Basic では別 unit で扱った会話のレポートも、この同 unit 内で行います。時制の一致、人称など、この intermediate での練習を加えれば、十分すぎるでしょう。

2. 完了時制

英会話初級者と上級者の違いの一つは、この完了時制を使いこなせるかどうかです。have+過去分詞は現在完了、had+過去分詞は過去完了。こんなことは誰でもわかります。大切なのは過去時制と全く違うことが分かり、**どういうときに現在完了を、どういう場合に過去完了を使うべきかが分かるということです。**イラストをたっぷり使い、視覚的にイメージで理解し、**現在完了を使うべき時は、現在完了でないとシックリこない。過去完了を使うべき時は過去完了でないとシックリこない。過去形を、現在時制を使うときはそうでないとシックリこない。**そんな感覚を植え付けるトレーニングをどっさりやっていただきます。ネイティブとの Q&A, 質問したり、答えたり、アニメーションを見て答えたり、手を変え、品を変え、完了時制の感覚をあなたの脳に植えつけ

ます。

3. 受け身

受け身は、日本の中学高校では間違っただけで教えられています。結果、9割以上の日本人は受け身を誤解し、まったく使いこなせていません。Be+過去分詞が受け身、こんなことを知っていても何の役にも立ちません。受け身はなぜ使うのか、どういうときに使うのが自然で、どういう場合は不自然なのか、そのことを感覚で理解する必要があります。受け身で言うか、そうでない文で言うか、その判断を正しくする練習をネイティブとのやり取りの中で行います。また、質問をする練習もたっぷり入れました。その際も、受け身に聞くか、そうでないのか正しく判断しなければなりません。ここはまさに、目からウロコの練習となるでしょう。

4. 名詞の拡大

basic では関係代名詞と前置詞による名詞の修飾を練習しますが、intermediate では形容詞、動詞の ing 形、過去分詞、関係詞による名詞の修飾について練習していきます。形容詞による名詞の修飾は意外に簡単ではありません。また、動詞 ing のイメージ、過去分詞のイメージを多くのイラストを交えて解説し、それらのフレーズを使い名詞を修飾することの意味を理解します。そして、Basic 同様、拡大された名詞、たとえば cars imported from the U.S. people waiting in the line over there , などを一つの名詞、一つの単語として文中で自由に使いこなせるか。この練習もネイティブとの対話の中でたっぷりやっていただきます。

関係詞に関しても、Basic では、名詞の修飾をし、それを文中で使いこなすことに焦点を絞りましたが、intermediate では、さらに一歩進み、関係詞を使うことによって、より分かりやすい情報の伝達をするコミュニケーションスキルとしてとらえています。もちろんネイティブとのたくさんの練習が用意されています。

5. 挿入

ネイティブスピーカーが話すのを聞いていると、文のあちらこちらに自由にフレーズを挿入します。完璧な綺麗な英文になじみのある日本人は、文の流れを見失ったりして、聞き取れなかったりします。しかし、挿入にも一定のルールがあり、そのルールを知ってしまえば、決して難しいものではありません。きっと英語を話すこと聞くことが楽になるはずです。ここではネイティブと様々な話題についてチャットするような口頭練習をしていただきます。英語を楽に話す感覚をたのしんでください。

6. see someone doing, see someone do

ある人が、あるものが～しているところを見た、聞いた、そんなことを言いたいときに

使う文構造です。どういう場合に動詞は **ing** となり、どういう場合に原形となるのか、感覚で理解していただきます。

ここでは実際に“見て、聞いて”いただく必要がありますから、アニメーションをたっぷり使った解説と練習があります。

7. 仮定法(仮にこうだったらと非現実的なことを仮定する)

単なる文構造で理解しないことです。would、could、might といった助動詞のニュアンスを感じ取ることが大切です。これまでもしかしたら使ったことのなかった、**would have done, could have done, might have done, should have done, こんな表現が自由に使いこなせるようになっていただきます。**

あなたを非現実の世界に引き連れるため、たくさんアニメーションを使った練習をしていただきます。様々な想像の世界があなたの前に何度も何度も現れます。その想像の世界に入っただけの口頭練習となります。この unit はとても楽しい unit になるはずですよ。

8. 比較

Basic でも、比較はやります。しかし intermediate での比較はさらに発展したものです。not as, の使い方、as~as の意外な使い方、the ~er, even, one of the best..., ever などなど、**より幅広い比較表現を体得していただきます。**ネイティブの意見に賛成したり、反対したり、意見を付け加えたり、様々な対話を通して、これらの比較表現を身につけます。

9. whatever, whoever, whenever, etc.

どうでもいい気持ちを表現するこれらの単語は日常生活で多用されます。その使い方は決して難しくありません。ネイティブとチャットする感覚でたくさん練習します。

10. 情報を付け足す、which と who

which も日本では間違っただけで教えられる単語の一つです。この情報を付け足す which と who、特に which (関係代名詞の that とは役割がまるで違います。そのイメージをつかんでいただきます。) はあなたが英語を話すことを何倍も楽しみます。言葉は単なる情報の足し算。そのことが感じ取れるはずです。**これらの単語を使って、ちょっとした情報の付け足しを、全体の文を壊すことなくやっつけていく練習をネイティブとの対話を通して、たっぷりこなしていただきます。**

11. unless

unless を if not と教える日本の英語教育に幻滅します。この単語も which 同様、ちょ

っとした情報を付け足す際に使う、とても便利な単語です。unless を if not と理解していたころは使いこなせなかったこのとても便利な単語も、正しく理解すれば、とても役に立つ言葉となり、あなたはひんぱんに使うようになります。unless は上級者用の単語、とんでもありません。目からウロコ、保証します。質問に答えたり、より分かりやすく言い換えたり、たくさんの口頭練習が用意されています。

1 2. 同時進行の動作と物事の背景を言う“動詞 ing”

分詞構文などという難しい英文法事項として教わるから、使えません。要は動詞 ing の本当のイメージを感覚でつかんでしまうことです。この動詞 ing を使いこなし、あなたの英語にネイティブのエッセンスをたっぷり注入し、圧倒的表現力の拡大をしていただきます。アニメーションをたっぷり使った練習で、同時進行や背景を視覚で感じて、ネイティブと対話しながら使いこなす練習をたくさんしていただきます。あなたの英語が一度むける。そんな感覚を味わっていただきます。

1 3. 他人にやらせよう、やらせる

Basic 編で学習した、make と let に加えて、Intermediate 編では have と get についても学習していきます。have と get が使いこなせれば、あなたの英語はネイティブレベル、と言われるくらい、この表現はあなたの英語をワンランク上の自然な英語に仕上げます。have someone do, get someone to do, have something done, get something done, こんな文構造を使いこなしたいと思いませんか。そのために have と get をイメージで理解します。解説にはたくさんのイラストを入れました。ネイティブとの対話練習も、これでもか、と言うほど用意してあります。

1 4. 意外に奥が深い there is, there are

存在を言うこの表現も日本人の多くは There is a big park in my town. ぐらいの内容でしか使いません。もったいない話です。ここでは会話の糸口をつかむためのコミュニケーションスキルとして、また、助動詞と絡めて、より幅の広い使い方を身につけます。